



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します

f シェアする

Tweet

🗺️ サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 社会彫刻としてのまちづくり 新野圭二郎さん

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

社会彫刻としてのまちづくり

f シェアする

Tweet



新野 圭二郎 (にいの けいじろう)

アーティスト / N STUDIO,INC.主宰

アートセンターNICA館長

大学で、建築・地域共生デザインや空間デザインを学んだ後、渡英。帰国後、本格的に活動を開始し、国内外で様々なプロジェクトを展開する。2003年より、東東京で始まった、リノベーションを使ったカルチャー・ムーブメントに初期から参画し、2011年にアート・クリエイティブ拠点「Creative Hub 131」（経済産業省Creative Tokyo構想賛同施設）、2013年、新たなパブリックの実験場「PUBLICUS × Nihonbashi」を東京日本橋にオープン。2015年1月、日本橋にアートセンター「NICA : Nihonbashi Institute of contemporary arts」を、本格的にオープンさせ、館長に就任。

👤 ログイン

📧 会員（メルマガ）登録はこちら！

✉️ メールマガジン 配信内容募集中

📁 マチイベ！
-街のイベント-
掲載依頼募集中

🔍 サイト内検索

🔍 検索

🔍 もっと詳しく検索する

－ Creative Hub 131が注目を集めています。どのような経緯でクリエイティブ拠点の設置・運営を手掛けるようになったのでしょうか－

2001年末にロンドンから帰国し、アーティストとして活動するようになりました。アーティストですので、まずは活動の拠点となるアトリエを作ろうと考えました。そこで、埼玉から東京、神奈川、千葉とあらゆるところでアトリエになりそうな物件を探していましたが、しかし、アトリエに合致するような、天井が高く、白い壁があるといった物件なんてどこにもありませんでした。それに、海外から帰国して間もないこともあり、不動産屋も社会的に不安定な立場にある人とみなしますので、気軽に貸してくれることもありませんでした。このような状況が続き、心が折れそうになりましたが、2003年、日本橋で安く大型のビルを借りることができるという情報をかぎつけ、オーナーを訪問しました。

2003年は、六本木ヒルズや汐留シオサイトができ、オフィスの供給過剰が話題になった頃です。いわゆる「2003年問題」としてメディアにも取り上げられていたことをご存知の方も多いのではないのでしょうか。また、この辺りは繊維問屋が集積していますが、ちょうど問屋システム以外のビジネスモデル、例えばユニクロなどのように製造と販売を一体に行う企業が登場したこともあり、繊維問屋が相次いでこの地から撤退し、物件が急激に値崩れを起こしていました。家賃交渉を行い、その年に、ビルの3階から5階までの57坪と屋上を15万円で賃貸することができました。いまでは考えられない価格です。家賃交渉と合わせて、そのビルに居住し、アトリエとして空間を使い、余剰スペースを知人に賃貸すれば、生計の足しになるのではないかと考え、転貸可能な契約を行いました。こういった交渉を行なう入居希望者も当時では珍しかったようです。

まちづくりケース集



街元気サイトのポスター



 @machigenki

 街元気 Facebook

 経済産業省

 MORIWA 中小企業基盤整備機構

 株式会社 全国商店街 支援センター



1 2 3 4

この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

Creative Hub 131

登録日 2016年2月26日（金曜）00:00

經濟產業省（法人番号 4000012090001）

主催／經濟產業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 社会彫刻としてのまちづくり 2ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

社会彫刻としてのまちづくり

－そのまま居住することは難しいと思いますが、どのような取組を行われたのですか－

実際に、自分も住み、知人にスペースを貸し、アトリエを作るには、改装が必要です。当時は、まだリノベーションという言葉もいまだ世間に浸透しておらず、2003年から2004年にかけて、白いペンキを塗り、合板を貼り、といったことを行いました。当時は、個人が建物を改装するという概念もあまりなかったように思います。

オープンしたのは2004年4月です。3階から5階のうち、4階にアトリエとギャラリーを作り、3階に3部屋を用意し友人のアーティストたちに貸し、5階の一部を自身の居住スペースにしました。4階のギャラリーでは展覧会などをやっていましたが、4階まで階段を登らなければなりませんし、やはり搬入も大変です。ギャラリーは作業が発生しますので、別の建物に設置し、4階も改装しようと考えました。ギャラリーの展覧会にいらっしゃるお客さまが改装に詳しい方でしたので、相談し、居住だけでなく働くことのできる場として、5つの小さなコワーキングスペースを作りました。

その後も改装は続けました。2006年には「ザ・ホスピタリティ」というレジデンス用の小屋を作り、海外のアーティストが無料で宿泊できるようにしました。ヴェネチアビエンナーレの国代表のアーティストなども普通に滞在していました。当時を振り返ってみても、異質な状況だったと思います。東京で始まった、リノベーションを使ったカルチャー・ムーブメントにおいて、この建物も発火点のひとつになったと思います。最終的には、著名なアーティストやビジュアルディレクターも引っ越してくるようになりました。

ログイン

会員（メルマガ）登録はこちら！

 メールマガジン
配信内容募集中 マチイベ！
－街のイベント－
掲載依頼募集中

🔍 サイト内検索

検索

🔍 もっと詳しく検索する



－ Creative Hub 131ができたのはその後ということですね－

ビルが手狭になってきたこともあって、新しくビルを借りることにしました。ただ、これまでは、自分たちが実現したいことを箱の中で実現していて、そこには東京で行うことの必然性はあまりなかったように思います。そこで、「その地の歴史に接続する」ということを重視し、2011年7月に、地域密着型のアート・クリエイティブ拠点「Creative Hub 131」をはじめました。これまでと同じように、コワーキングスペースがあるだけでなく、“食えないクリエイターが1食500円で飯が食える”というコンセプトで「まちの食堂」も作りました。多様な主体が参画するコミュニティの形成において、食はとても重要な要素になります。そのため、Creative Hub 131の中心に55平米のキッチンを据えました。連日、食事会を開催するうちに、いろんな街の人、いろんな業界や所属の人、その友達という人が集うようになり、クリエイティブを基軸とした拠点が形成されるようになりました。

また、「プライベートから始めるパブリック」というコンセプトも掲げており、それに賛同した関係者と一緒に、“街に良くなることをやろう”という話になり、月に1度、「131会議」なるものを開催



 @machigenki

 街元気 Facebook

 経済産業省

 中小企業基盤整備機構

 株式会社 全国商店街支援センター

し、街の人が誰でも会議に参加し、街に起こる様々な問題をクリエイティブに解決しようということを行なうようになりました。



1 2 3 4

この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

Creative Hub 131

登録日 2016年2月26日（金曜） 00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 社会彫刻としてのまちづくり 3ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

社会彫刻としてのまちづくり

－「その地の歴史に接続する」というコンセプトはどういった経緯で生まれたのでしょうか－

先ほどもありましたが、まず、地域活性化などについての関心はまったくありませんでした。この地から直接世界とつながろうと考えていて、たまたまその地が日本橋であっただけなのです。ワールドクラスのアーティストやクリエイターが普通に訪れる、そんなところにしたかったのです。正直なところ、当時は、日本橋にまったく興味はなかったですし、町会にも当然興味はありませんでした。

Creative Hub 131を構想する直前の2010年、アーティストとして上海万博のプロジェクトに参加したことが大きな転機となりました。過去を思い出して頂ければと思いますが、2000年から2010年ごろの東京はカルチャーの生み出せない10年間ではなかったでしょうか。もちろん、アーティストである自分たちも面白いことを仕掛けているつもりでいましたし、新しい東東京のムーブメントを作っていて、カルチャーシーンの最前線にいるような感覚もありました。しかし、上海を訪れ、上海を一步引いた目線から眺めてみると、なんだか東京と上海ではあまり代わり映えがしなかったり、むしろ上海の方が面白いことがたくさんあるような気がしたりしていました。これから日本は、世界ができることと同じことをやるのではなく、日本らしさを活かし、そして、アートやまちが日本の歴史に接続することで、国として確固たる地位を築けるのではないかという印象を持ちました。事実、モダンで巨大な都市がゴロゴロできている現状を考えると、いまさら同じような文脈で東京を作る必然性も見当たりません。改めて、日本に帰国し、単純にコンクリートの天井を剥がし、白いペンキを塗り、きれいになったこの近代の箱の中で思考を重ねても、何も近代を超えるようなアイデアは生まれてこないだろうなあと

ログイン

会員（メルマガ）登録はこちら！

 メールマガジン
配信内容募集中 マチイベ！
－街のイベント－
掲載依頼募集中

サイト内検索

検索

もっと詳しく検索する

思うようになりました。こういった発想の中で、Creative Hub 131を着想し、先のような活動を実施するに至りました。



－ Creative Hub 131以外のまちづくりの活動はありますか－

多様な主体が参画するという意味では、日本橋での水辺の活動でしょうか。ある日、日本橋の旦那衆が水都・日本橋を復活させたいという強い思いがあることを知りました。CreativeHub131には、あらゆる業界のクリエイティブに関わる人たちが集まっています。早速、CreativeHub131を訪れた方々に「水都・日本橋を復活させたいという声が挙がっているから一緒にできないか」と声をかけました。すると、人のつながりが連鎖し、東京都の河川局とつながり、区役所とつながり、地元の古くからある組織とつながっていきました。

人がつながることで、そこには様々な機能も集まります。イベントの企画ができる人、水辺の利用に



関する規制の緩和交渉ができる人。それぞれ得意な機能を集めることで難しいことも実現できるようになります。旦那衆や地元の方々の推進力も素晴らしいものがありました。最終的には、1年に1日だけ浜町の防災船着場を遊びという文化のために使える枠を確保し、区長はじめ関係者と一緒に船に乗り、オリンピックの競技予定地や晴海を船で回るというツアーが行われました。もちろん、水都・日本橋を復活させることには至っていませんが、ひとつのイベントでこれまでの規制を突破できましたし、このイベントをくさびに様々な仕掛けができてくればよいと思います。日本橋のある中央区では、中央区を創造都市にしようといった動きも出てきているようですし、とても面白いことが起こっています。

中心市街地活性化協議会
支援センター

J-Net21
中小企業ビジネス支援サイト



■ [この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります](#)

Creative Hub 131

登録日 2016年2月26日（金曜） 00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します



Tweet

サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 社会彫刻としてのまちづくり 4ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

社会彫刻としてのまちづくり

－最後に今後についてお聞かせください－

20世紀の著名なアーティストのひとりであるヨーゼフ・ボイスが「社会彫刻」という概念を提案しています。すべての人間は芸術家である、アーティストであり、社会という彫刻を作る芸術家であるという概念です。私はこの概念に触れたとき、アーティストは、こんなに自由に、こんなに色々なことができるのだと感じました。もともとアーティストになった理由がこの概念ですので、これからもアートの拡張として、色々な社会彫刻活動を展開したいと思います。

ログイン

会員（メルマガ）登録はこちら！

メールマガジン
配信内容募集中

マチイベ！
－街のイベント－
掲載依頼募集中

サイト内検索

検索

もっと詳しく検索する



[f シェアする](#) [Tweet](#)

1 2 3 4

この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

Creative Hub 131

登録日 2016年2月26日（金曜）00:00





[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.